

令和3年度 都城市立富吉小学校 学校運営協議会評価 ①

信頼される学校

敏感な人権感覚を根底にしながら、児童の個性に応じた指導をとおして、確かな学力と豊かな人間性を身に付けさせ、ふるさと富吉を愛する児童を育成し、児童・保護者・地域に信頼される学校を創造する。

4段階評価 ( 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する )

	重点目標	具体的目標	本年度の取組について	内部評価		コメント	評価
				項目	全体		
知育	「確かな学力」を育成する	(1) 教育課程の工夫等による授業時数の確保と学習内容の確実な定着を図る。	【アンケート結果より】 ○児童、保護者ともに学校の授業はわかりやすく学習内容を理解していると考えている。児童の授業に対する取組姿勢は意欲的で、難問や苦手分野への挑戦に努力している児童も多く、保護者アンケートの結果からも「わかる・できる」授業づくりの成果が認められる。  ○家庭学習に対する取組姿勢について児童と保護者ではとらえ方に差が見られた。取組の個人差については職員も課題意識をもっており自主的に取り組む姿勢と学習内容の工夫に見られる個人差の解消に向けた工夫が必要である。	2.8	3	○わかりやすく工夫された授業をされている。子ども達が楽しく授業を受けているように見えた。  ○苦手な教科をどうしたら克服できるか。どうしたら好きになれるか？苦手なものはますますわからなくなり嫌になっていくように思います。  ○授業はわかりやすくていねいに行われていると感じます。  ○学習内容を理解できている子とそうでない子の差があると思います。  ○コロナ禍で学校を訪れる機会が少なくなったが、「赤ペン先生（朝の学習支援活動）」のとき早くできた子が他の児童に教える様子を見て達成度を同じレベルにしようとする授業を進めていると感じた。また、「きんかんちぎり」など実際に物にふれ合う体験も必要と思います。放課後の児童教室など今後地域で何ができるかを検討していく必要があると考えます。  ○授業に対する先生方の工夫等が保護者にも理解され認められているようである。	3.0
		(2) 家庭学習の内容の充実を図り、学習効果を高める。	○図書館サポーターとの連携や図書委員会の活動、読み聞かせボランティアの協力等を通じて本に親しむ機会の充実と読書環境の整備を進めてきた。授業での活用も含め児童が図書室に足を運ぶ回数は着実に増えている。  【内部評価より】 ○内部評価より学習内容の充実が図られた主要因として、「校時程の工夫」や「ICT機器の活用」等があげられた。	2.8			
		(3) 読書活動の習慣化（量と質のバランス）を図る。	○家庭学習の充実に向けた手立てとして、優秀な取組例の「掲示」や「表彰」、課題内容の「家庭への連絡」や「学年に適した量の調整」を行ってきた。  ○読書に対する児童と家庭の認識に違いが見られることから、家庭における読書習慣と学校の取組に対する認知度に個人差があると考えられる。家庭と連携した読書活動の推進に今後も努めていきたい。	3.3			
徳育	「豊かな心」を育成する	(1) 差別やいじめを許さない雰囲気の醸成、望ましい言動の称賛に努める。	【アンケート結果より】 ○同学年に限らず異学年との交流も盛んで仲良く楽しい学校生活を送っている児童が多いようである。人間関係を円滑にする感謝や謝罪の言葉についての常時指導や教育相談を通じた成果がうかがえる。大きなトラブルも無く全体的に落ち着いた生活を送っている。	3.0	3	○下校後異学年と楽しく遊んでいるようです。  ○他校との合同遠足は友達が出来て嬉しい様です。  ○放課後数名の子が仲良く遊んでいる姿をよく見かけます。男女及び異学年での交流なので、いじめなども少ないのではないかと思います。  ○あいさつは大人より先に自ら進んでしてもらいたい。	3.3
		(2) 教育相談の計画的な実施と問題行動への組織的な早期対応を行う。	○昨年度に比べ学級通信で道徳の授業に関する取組を紹介しており、情報発信に関しする保護者の評価も良好であった。  【内部評価より】 ○定期的なアンケートをもとに教育相談や全職員による児童理解の場を設けることで、問題の早期発見と組織的な対応を心がけてきた。一方で放課後の過ごし方や挨拶、トイレのスリッパが並んでいない等細かなルールが徹底されていない課題が見られ、児童アンケートの結果からもその様子がうかがえる。異学年交流の機会も多く学年を超えた良好な人間関係が見られる反面、問題になる場合も学年間を超えた内容となることもある。今後も児童理解を深め子どもに寄り添う指導を家庭と連携しながら進め、地域に愛される児童の育成に努めていきたい。	3.8			
		(3) 道徳教育を充実させ、思いやりの心を育てる。		3.2			

令和3年度 都城市立富吉小学校 学校運営協議会評価 ②

信頼される学校

敏感な人権感覚を根底にしながら、児童の個性に応じた指導をとおして、確かな学力と豊かな人間性を身に付けさせ、ふるさと富吉を愛する児童を育成し、児童・保護者・地域に信頼される学校を創造する。

4段階評価 ( 4：期待以上 3：ほぼ期待どおり 2：やや期待を下回る 1：改善を要する )

	重点目標	具体的目標	本年度の取組	内部評価		コメント	評価
				項目	全体		
体育	「たくましい体」を育成する	(1) 新し生活様式を基盤にした体育指導及び健康教育を実施する。	<b>【アンケート結果より】</b> ○感染レベルや季節に応じた健康維持のための衛生管理を保護者の協力を得ながら取り組んだ。コロナ感染対策を講じながら体力向上や食に関する指導は課題が多く、工夫しながら行ってきた。 ○体育の授業を楽しみ、外での運動や遊びが好きな児童が多く、運動を楽しむ機会や体育の授業の充実に向けた取組が子どもたちの体力向上に向けた意欲付けになっている。 ○給食指導、お弁当の日等の食に関する指導や避難訓練、集団下校等の安全教育に取組の成果も見られる。 <b>【内部評価より】</b> ○今後もコロナ禍を受け様々な制約により変化する生活様式に合わせた対応が求められる。普遍的な努力事項として運動を苦手とする児童や偏食が見られる児童への働きかけ、姿勢やむし歯予防に関する啓発について継続して取り組んでいく必要がある。	3.3	3	○近頃の子どもは昔と比べて体力がないと言われていますが、家の中でのゲームばかりで外での遊びが少ないからだと思います。また、手伝いと宿題で忙しい様です。特に冬は日暮れが早いので遊ぶ暇がありませんね。 ○感染対策をしながら運動するのは大変であろうと思います。 ○持久走大会では、子供たちが一生懸命に走っている姿が見られた。運動は体力の向上、健康づくりに役立つので、学校の時間割の中で遊びの時間として取り入れると有効と考えます。	3.1
		(2) 「食」に関する指導充実と諸検査の結果を生かしたきめ細やかな対応を行う。		3.0			
		(3) 安全教育の充実及び施設・設備の安全点検の徹底と素早い対応を行う。		3.3			
家庭・地域との連携	ふるさと教育を充実する	(1) 地域に関する学習をとおして、ふるさとを愛する心を育てる。	<b>【アンケート結果より】</b> ○新聞への投稿や通信、ホームページの更新による情報発信を通じて、子どもたちの様子を地域に広く伝えることができた。 ○コロナ禍にあり学校支援ボランティアの方々には可能な範囲で工夫して協力いただいた。子どもたちも感謝の気持ちを感じているようである。 ○感染対策を講じながら子ども芸能については、練習やオープンスクールでの披露の場を設けることで伝統を受け継ぐ活動となった。 <b>【内部評価より】</b> ○コロナ禍による行事の中止や規模縮小が続く中、職員も地域人材の活用を十分にできていないと感じている。地域との関わりが薄れることや参加メンバーの固定化に関する危機感がアンケート結果から見られた。 ○2年続いた学校単独の運動会に関しては、より子どもの様子をしっかりと見ることができるといった肯定的な意見も見られた。これまでとは異なる方法も視野に入れ、コロナ禍による制限も視野に入れた地域連携のあり方について検討していく必要がある。	2.5	3	○宮崎日日新聞の「若い目」に載った児童が多いですね。1回も乗らない子どもは作文力がないのでしょうか。それはその子の読書量が少ないからではないかと思います。 ○名人集会では、自分で名乗り出て発表する事が出来る素晴らしい取組だと思います。 ○「みんなで富小」の発行で学校の様子がよくわかり、楽しみです。 ○新聞への投稿と掲載が子と親の喜びや励みになっていると思います。 ○コロナ禍の中で合同運動会が小学校単独の運動会となりました。将来富吉小の児童数が減少し、1学年が10人に満たないようになります。また、地域も自治会の加入者数が減少傾向にあり、地域社会のつながり、支え合いが希薄になっている現状です。このような状況の中で合同運動会は学校を起点として、学校と地域を盛り上げていく役割の一端を担っています。学校、保護者、地域が運動会の在り方について検討していく必要があると思います。 ○コロナ禍によって子供たちが放課後に遊んでいるのを見かけることがなくなって寂しく思います。	3.1
		(2) 地域人材の活用を図り、教育効果を高める。		2.8			
		(3) 地域の中の学校としての役割を果たし、積極的な情報発信を行う。		3.2			